

# 小規模校連携による 学びを繋ぐ協働チームの 創出に向けて

笠岡市の取組

連携校

笠岡市・矢掛町中学校組合立小北中学校

笠岡市立大島中学校

笠岡市立神島外中学校



各学年 1 クラス

教師の思い

もっと英語を話せる生徒を育成したい。



どんな授業をすれば  
いいのだろうか…



自分の実践は良い方向へ  
向かっているのか…

## 小規模校の課題

- ▲ 多忙（多くの校務）
- ▲ 知識・スキルの習得が追いつかない
- ▲ 同じ教科の相談相手がない



学びを繋ぐ協働チーム

学びを繋ぐ協働チーム

教師一人一人の『自律性』

(自ら学ぶ姿勢)

+

『協働性』 (組織的な学び合い)

取組

- (1) 合同教科会の実施
- (2) 協働的な授業研究

## ( 1 ) 合同教科会の実施

週1回、1時間、オンラインによる合同教科会

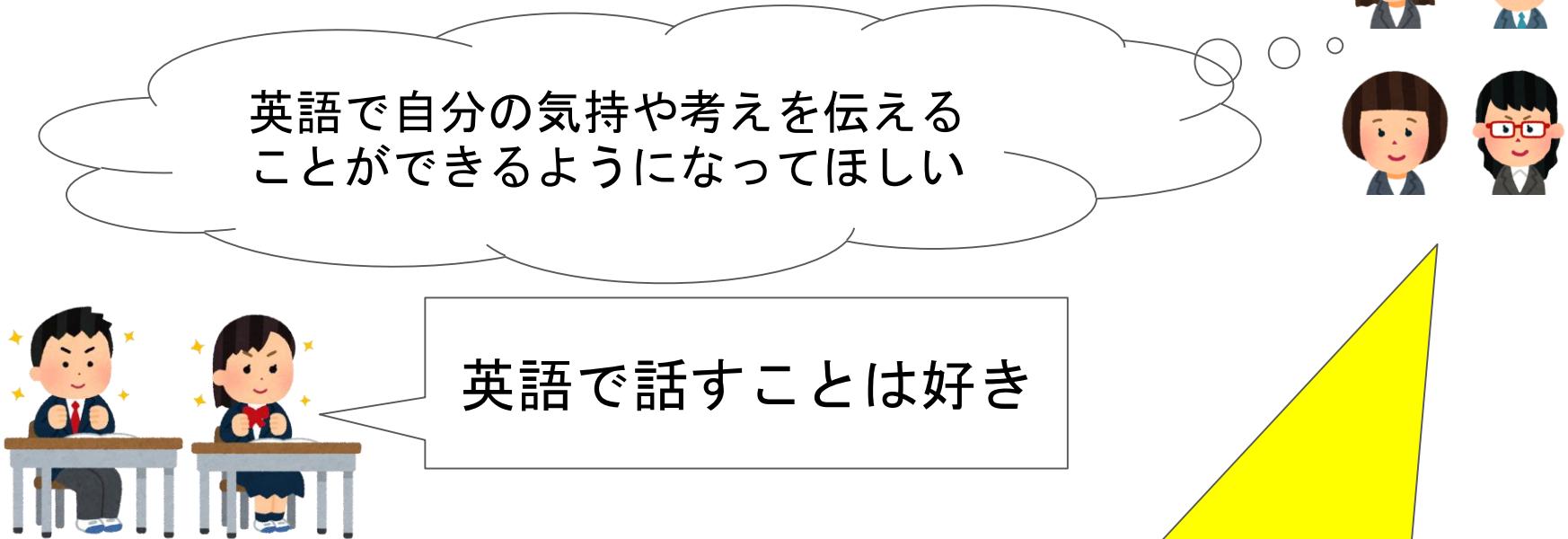
### 【主な内容】

- ・授業の疑問、課題の協議（「困り感」の共有）
- ・学んだことの共有
- ・目指す生徒像の共有



協議内容、資料は全てクラスルームに残す

# 合同教科会で目指す生徒像の共有



話す力の育成を目指そう

# 対面での合同教科会（他のつながりを求めて）



<https://youtu.be/-U7YUcNsAXI>

## （2）協働的な授業研究

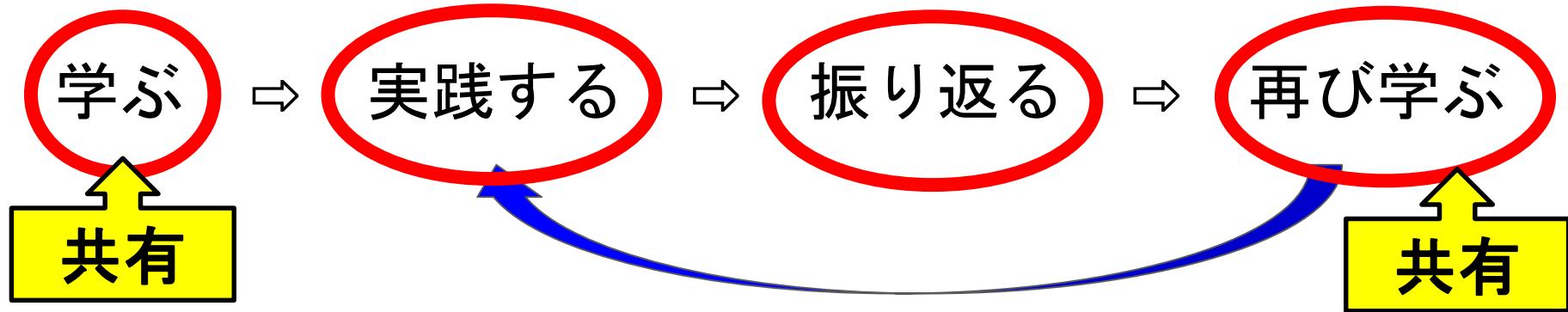
### オンライン交流授業の企画・準備

- ・ 単元のゴール
  - ・ 単元計画
  - ・ 1時間ごとの流れ
  - ・ パフォーマンステスト
  - ・ 評価
- など

# オンライン交流授業 の様子



# 協働で回す学びのサイクル



## 小規模校連携アドバイザーの先生からの 多様な意見

- ・より専門的な知識
  - ・他の地区や先生の実践
  - ・興味深いアイディア

# 成果と課題

## 【成果】

- ・授業についての悩みを相談することができる。
- ・様々な知識を共有し、自分の学びを増やすことができる。

## 【課題】

- ・合同教科会の日程調整が困難である。
- ・教科会を行うことで、授業時数 + 1 時間となる。
- ・生徒の英語力についての調査が不十分である。

## 今後の取組

- ①合同教科会 → 多忙な日を除く
- ②協働的な授業研究 → オンライン交流授業に向けて
- ③協働授業の実施
  - 教科研究推進委員がそれぞれの学校へ行き、ともに授業を行う。
  - また、時にはT1として授業を実施する。

## 協働で回す学びのサイクルにおける今後の展望

学ぶ

実践する

振り返る

再び学ぶ

- 教育理論や研究的知見などの理解
- 生徒の様子、アンケート結果、試験の解答などからの実態把握

理論と実践の往還